

胆道閉鎖症スクリーニングの費用分析

(分担研究：スクリーニングの評価に関する研究)

佐々木暢彦、松井 陽*¹

要約 栃木県で実施されている、便色調カラーカード法による胆道閉鎖症のマススクリーニングに必要な年間経費は、1 出生児あたり 54.5 円だった。

見出し語：スクリーニング、胆道閉鎖症、費用効率

研究方法：

94年8月から現在まで栃木県で実施されている胆道閉鎖症のマススクリーニングを実施するに当たって、実際に必要とした年間当たりの費用を算定した。

結果：

「母と子の手帳」に挟み込んだ同意書・説明書の印刷に2万円、便色調カラーカードの印刷には1枚5円として4万枚で20万円、版代に10万円使用した。カード回収のための郵送費は月1万として12万円、事務費に2万円、人件費に63万円（時間給1,000円として1回4時間、週3日

を52週）、合計109万円を要した。年間出生数を2万人とすると、1人の出生児あたりの必要経費は54.5円であった。

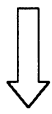
考案：

便色調カラーカード法による胆道閉鎖症のマススクリーニングは、簡便であるばかりでなく、きわめて安価で、著明な費用効率が期待された。

*¹自治医科大学小児科



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 栃木県で実施されている、便色調カラーカード法による胆道閉鎖症のマススクリーニングに必要とした年間経費は、1 出生児あたり 54.5 円だった。